

第 1 学年 英語科学習指導案

1 単元名 PROGRAM 7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、主人公のユキとマイクが北海道の釧路沖でシャチウォッチングに参加し、ガイドの笹森さんからシャチの説明を聞くところから始まる。Section 1 では、ユキがパンフレットを見て、笹森さんのことを知り、彼女がシャチ、イルカやクジラについて研究していることをマイクに教える。Section 2 では、マイクとユキは、笹森さんからシャチの説明を聞く。Section 3 では、笹森さんのイルカの説明に対してマイクやユキが質問をすることによって、イルカのことを詳しく知る内容である。この教材を通して、「海のギャング」と呼ばれ、どう猛なイメージのシャチが、実は家族を大切にしていることや、室蘭沖のイルカが豊かな海で伸び伸びと子育てをしている様子を通して、自然の素晴らしさ、大切さを感じ、身近な自然を大切にしたい気持ちや育みたい。また、笹森さんが行うシャチの説明を通して、「Show & Tell」の仕方を学ぶことができる教材である。

言語材料としては、①Who is that boy? He is my friend Tom. (疑問詞の who とその答え方)、②This is my friend Miki(Takeshi). I like her (him). (人称代名詞目的格 him/ her)、③When do you usually clean your room? On Sunday mornings. (疑問詞の when とその答え方)が新しく紹介されている。疑問詞を使った疑問文を学ぶことで、質問の幅が広がるとともに、自分が聞きたいことを増やせるチャンスでもある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、まじめに授業に取り組む生徒が多い。全体的に学習した内容は理解しているが、自信がなく、積極的に発言をしない生徒が多い。また、活動に集中できず、学習内容の理解に影響することもある。しかし、7月に行われたアンケート結果より、「TTの授業をすることで、勉強が分かりやすくなった」という項目に肯定的に答えた生徒が 82%おり、TTの授業を肯定的に感じている生徒が多い。中1 TTを行うことや、ペア活動や協働学習を取り入れることにより、苦手な生徒が少しでも授業に参加できるように仕向けていくことが必要だと考えられる。

また、期末テストでの「自己紹介文」では、正しい語順で書けてはいるが、スペルの誤りが多く、質問文に関しては、正しい語順で書けない生徒が多い。定着に時間が掛かる生徒が多く、家庭学習が十分でないことが原因の一つだと考えられる。

(3) 指導観

佐賀県では、「佐賀メソッド」を取り入れた授業づくりを行っている。「佐賀メソッド」とは、「自ら発信する力・人と関わり合う力」を培うために、学期ごとのプロジェクトゴールを達成するための単元ゴールを設定し、活動への意欲を高める手立てを取り入れながら、生徒に Small Output 活動や Output 活動といった、4技能を統合した言語活動に繰り返し取り組ませる指導方法のことである。

今学期は、プロジェクトゴールを「人を紹介しよう」とし、それにつなげるために Program 7 の単元ゴールを「ニックについて紹介しよう～私達がニックのためにできること～」とした。それらのプロジェクトゴールを達成するために、Small Output 活動では、Questions & Answers making & Solving (以下 Q&A Making 活動)や Read Between the Lines and Write (以下 RBL & W 活動)を仕組んでいく。

前述の課題を踏まえて、生徒の発話量を増やしたり、試行錯誤しながら英文を作り出させたりする場面を設ける。Section 1の帯活動では、「ニックにインタビューしよう」という目標を設定し、ペアでニックについての質問とその答えを言い合うQ&A Making活動を行う。また、Small Output活動において、メモに書かれた、教科書にないニックの情報を人に伝える活動や、その情報を基にペアでニックについての紹介文を作る活動を仕組む。次のSection 2では、「笹森さんになったつもりでニックをお客さんに紹介しよう」という目標を設定し、笹森さんによるニックの紹介を基にRBL & W活動を行う。最後に、ニックへのメッセージを書かせることで、既習の語彙・表現を活用する場面を作る。

基礎・基本の定着を図るために、「意味順」を活用した授業を行っていくとともに、フォニックスを取り入れながら、単語を書く指導を取り入れている。さらに、自分の書きたいことを書くだけでなく、相手を意識した、まとまりのある英文を話したり、書いたりできるように指導をしていきたい。その際、自分の考えや意見をまとめるときには、メモやマッピングを活用し、情報や思考の整理を行うことが大切だと伝えていきたい。

自信がなく、発言することが苦手な生徒や、話をじっくり聞くことができない生徒もいるので、話したり聞いたりする必然性がある活動を設定したり、個別に声を掛けたり、理解を確かめたりするなどの手立てを取ることにする。また、授業と家庭学習の内容をリンクさせ、授業で学習した内容を振り返ったり、強化・補充したりすることができるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 間違いを恐れずに、ペアやグループで対話しようとする。
- (2) 本文の内容を理解し、既習単語や英文を使って、海の生き物についてスピーチをする。
- (3) who, when, him, her を用いた文の構造を理解する。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れずに、ペアやグループで対話しようとしている。 ② 分からない単語や英文は自分で辞書を使ったり、意味順を考えたりしながら、自分の力で表現しようとしている。	既習の単語や英文を使って、ニックについて紹介し、コメントを話したり、書いたりすることができる。	英文を聞いたり読んだりした後、マッピングを使って情報を整理し、適切に内容を理解することができる。	疑問詞 who, when, 代名詞 him, her を用いた文を理解している。

5 単元計画（全 8 時間 本時 2 / 8）

時間	○ねらい ・ 学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ガイドの仕事について知り，ガイドをする際のポイントを知る。 ・笹森さんやシャチのニックに関する情報を Teacher Talk で知る。 ・疑問詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み，会話の内容を知る。	ア①② エ ウ	活動の観察 後日ペーパーテスト
2 本時	○ニックについて情報を整理する。 ・ニックについてマッピングをする。 ・マッピングを参考に，笹森さんになったつもりで，シャチのガイドを行う英文を作り，発表する。	イ	活動の観察 ワークシート
3	○笹森さんの説明を読み，ニックについてもっと知る。 ・代名詞 him, her を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み，会話の内容を知る。 ・笹森さんの説明からニックについて情報を知る。 ・ニックに関する情報をマッピングに付け加える。	エ	活動の観察 後日ペーパーテスト
4	○笹森さんになったつもりでニックをお客さんに紹介する。 ・教科書 p. 71 の笹森さんのスピーチにニックの情報を英文で付け加える。 (RBL&W 活動)	イ	活動の観察 ワークシート
5	○マイクやユキが笹森さんに尋ねたことを知る。 ・疑問詞 when を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ・新出単語と本文を読み，会話の内容を知る。	エ ウ	活動の観察 後日ペーパーテスト
6	○笹森さんになったつもりで，イルカについてガイドをする。 ・対話の内容を参考にし，説明文に直し，イルカについて説明する英文を作成する。	イ	ワークシート
7	○笹森さんになったつもりで，ガイドをする。 ・カードに書かれている情報を基に，海の生き物を説明する英文を作成する。 ・ガイドになったつもりで，スピーキング練習を行う。	イ	活動の観察 ワークシート
8	○笹森さんになったつもりで，ガイドの発表をする。 ・グループで発表する。 ・本単元の振り返りをする。	イ	活動の観察 録画記録
	○後日スピーキングテスト（発表とやり取り）を行う。	イエ	▼ スピーキングテスト

6 本時の目標

マッピングを見ながら、ニックについて 5 文以上で話すことができる。(外国語表現の能力)

7 本時の展開

過程	学習活動	○教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価の方法
導入	<p>1 帯活動 1 を行う。 Q&A 活動</p> <p>2 帯活動 2 を行う。 ペアでインタビューする人とニックの役を決め、Q&A Making 活動を行う。</p> <p>3 見通しを持つ。</p>	<p>●正しく読めない生徒に T1, T2, ALT が発音を教える。</p> <p>○ニックへの質問と答えをペアで作らせる。</p> <p>○作った英文を T1, T2, ALT それぞれの所へ言いに来させる。</p> <p>○教師は、口頭による描写に対して、修正を行う。</p> <p>○ニックの紹介文を作らせる。</p>	
展開	<p>4 新しい表現を学ぶ。</p> <p>5 Small Output 活動 ニックを紹介する英文を作る。</p> <p>(1) 英作文グループでマッピングを見て、ニックの紹介文の英文を作成する。</p> <p>(2) 英作文グループで作ったニックの紹介文を 30 秒程度で言えるように練習する。</p> <p>(3) 発表グループを作る。</p> <p>(4) 各英作文グループの紹介文を 30 秒程度で順番に発表する。聞き手はメモを取る。</p>	<p>○ALT は新出表現に関わる写真を提示し、生徒とのやり取りを通して、意味を推測させる。</p> <p>○音読練習をさせる。</p> <p>○ALT は、モデル文を提示する。</p> <p>●英語の語順で話しているかを確認する (T2, ALT)。</p> <p>○分からない単語は、辞書を引くように促す (T1, T2)。</p> <p>●読めない単語は教える (T2, ALT)。</p> <p>○なるべく暗記を促す (T1)。</p> <p>○話すときのポイントと、聞くポイントを教える。聞き手には、メモを取らせる (T1)。</p> <p>○話し手と聞き手の進行が上手に行われているかを確認する (T1, T2, ALT)。</p>	活動の観察

めあて：笹森さんになったつもりで、お客さんにニックの紹介をしよう！

	(5) 英作文グループに戻り、発表グループで聞いたことを班員に伝える。 (6) (5)の情報を基に、ニックの紹介文を作り、練習する。	○得た情報を、まとまりのある内容にするようにアドバイスする。	
まとめ	6 振り返りをする。 ・振り返りシートの記入をする。	○振り返りシートの記入をさせる。 ○宿題として、新しい情報を付け加えながら、ニックの紹介文を書くことを伝える。 ○次時の予告をする。	ワークシート (後日評価)

8 本時の評価

評価規準	マッピングを見ながら、ニックの紹介を5文以上で話すことができる。		
判断する めやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	ニックの紹介を6文以上で話すことができる。	ニックの紹介を5文で話すことができる。	(B)に達していない状況
→(B), (C)と判断した生徒への支援		→マッピングを見ながら、言いたいことを確認させる。	→穴埋め形式のお助けシートを配付する。
評価方法	行動観察, ワークシートの記述		

ニック紹介活動のまとめ 今日の授業の振り返りをしましょう!			
①ペアで先生のところに何回きましたか?	3点 (3回以上)	2点 (2回)	1点 (1回)
②ニック紹介を何文いえるようになりましたか?	3点 (5文以上)	2点 (4~3文)	1点 (1~2文)
③自分の立てた目標を達せることができたか?	3点 (よくできた)	2点 (できた)	1点 (努力必要)
今日のあなたの合計点数は?	合計 () 点 / 9 点満点中		
今日の自分の成長を記録しよう!(どんなことができるようになったかな?)			

資料1 本時の振り返りシート

自分のスピーチをチェックしてみよう!		
1	相手に伝わる声で発表ができています	
2	相手が分かるような速さで話すことができています	
3	相手の目を見て話すことができています	
4	身振り手振りを使って発表することができています	
5	一文伝え終わったら、時間をおき、伝えることができています	
6	英語らしい発音になるように気をつけて話ができている	
7	○スピーチをする際に、どんなことに気をつければ、相手に伝わりやすいスピーチになると思いますか?	
()年()組()号 名前()		

資料2 スピーチ自己評価表

Card 1

ニックの家族

- ・大きい
- ・男
- ・強い
- ・賢い
- ・サメやイルカを食べる
- ・ニックのホームは「海のオアシス」

由紀の絵

Card 2

ニックの家族

- ・家族がいる
- ・子どもがすき
- ・家族の顔
- ・家族と生活している
- ・いつも、家族を見ている

由紀の絵

Card 3

ニックとニックを見に来た人たち

- ・最初は、毎週くる
- ・本意がある
- ・その本意の裏切り、ソリマチ
- ・ソリマチは、かえりない
- ・しかし、最後ソリマチとニックはこいひ

由紀の絵

Card 4

ニックの家族

- ・美しい
- ・ハンサム
- ・サメやイルカを食べる
- ・危険な動物
- ・とても優しい

由紀の絵

資料3 ニックの紹介カード